



Sapporo Gakuin University

学園広報

2008.2.20 No.99

編集・発行 札幌学院大学 広報課
〒069-8555 北海道江別市文京台11番地
電話 (011)386-8111
http://www.sgu.ac.jp

入賞作品一覧

- ◆最優秀賞 (1点)
「御飯の時間」 御手洗智美さん (博多女子高等学校2年)
- ◆審査員特別賞 (2点)
〈はた万次郎賞〉
「田んぼと畑」 山元 奈々さん (宮崎県立都城西高等学校2年)
- 〈小野寺歩賞〉
「大切な気持ち」 織田華菜子さん (北海道美唄聖華高等学校2年)
- ◆優秀賞 (5点)
「愛すべき函館弁」 上田 恭子さん (函館白百合学園高等学校2年)
「“父”へ」 中島 海帆さん (岩手県立高田高等学校2年)
「大きな手と小さな手」 柴田 千晃さん (福岡県立小倉商業高等学校3年)
「こみゅにけーしょん」 行武 千絵さん (九州産業大学付属九州高等学校2年)
「夢」 高橋 拓志さん (熊本県立球磨工業高等学校1年)
- ◆佳作 (4点)
「私の傷」 中村 裕子さん (青森県立八戸高等学校1年)
「故郷」 中岡 朋子さん (大分県立国東高等学校3年)
「桜」 田平 修さん (宮崎県立宮崎西高等学校2年)
「絆の楽譜」 川畑 結貴さん (鹿児島県立伊集院高等学校1年)
- ◆学校賞 (5校)
青森県立八戸高等学校
福岡県立小倉商業高等学校
福岡県立立筑紫丘高等学校
大分県立東明高等学校
延岡学園高等学校

札幌学院大学小論文コンテスト 第2回高校生エッセイフォーラム 「わたしの大切なもの」入賞作品決定



(前列左から) 御手洗さん、山元さん、織田さん、布施学長、上田さん、行武さん、高橋さん (後列左から) はた氏、小野寺氏、川合審査員、湯川審査員

時間を要した 審査会

今回のテーマも第一回と同じ「わたしの大切なもの」。ポスターや応募用紙も昨年との連続性を感じさせるものにし、イメージの統一を図りました。また、北海道、北東北に加え、新たに九州、九通の応募作品は第一次選

募集の工夫

第二回高校生エッセイフォーラムは、「わたしの大切なもの」というテーマで作品を公募し、全国の高校生から三、一〇九通の作品が寄せられました。最優秀賞は「御飯の時間」を書いた御手洗智美さん(博多女子高等学校二年)。十二月二十六日には受賞者とそのご家族をお招きして、本学で授賞式が行われました。

全国各地より三、一〇九通の応募 昨年のほぼ二・五倍

全県と沖縄の高校へ案内を送付した結果、全国から三、一〇九通の応募がありました。審査を経て、三十一作品が最終選考に残りました。十一月十三日、はた万次郎氏(漫画家・エッセイスト)、小野寺歩氏(本学卒業生・元日本女子カーリングチーム主将・新聞各紙では小笠原(旧姓・小野寺)さんと記載)をお迎えして審査会が行われ、八作品が入賞、四作品が佳作に選ばれました。

応募総数が増えた分、優れたエッセイの量も多くなり、選考にはかなりの時間を要しましたが、どの作品からもそれぞれの高校生が素朴で優しく温かく、それでいてはしっかりとした意思を持って書いていることが伝わってきて、昨年同様新鮮な気持ちにさせられました。

指導に当たられた高校の先生方からは、八〇〇字という字数や、テーマが身近

十二月二十六日、最優秀賞、審査員特別賞、優秀賞を受賞された方々を本学にお招きして授賞式を行いました。道内各地のほか、遠くは九州宮崎まで、六名の受賞者とそのご家族が出席され、喜びを分かち合いました。

命を大切に してほしい

授賞式後の懇親会では、受賞者ご家族、審査員のはた氏と小野寺氏、布施学長らが、地元江別の食材を使った昼食をともにしながら懇談しました。ようやく緊張がとけ、リラックスして



授賞式で布施晶子学長より表彰を受ける御手洗智美さん

次年度も開催します

高校生エッセイフォーラムは、二〇〇八年度に第三回を開催します。現在、テーマを含めた企画の詳細を検討し、五月には募集要項を発表できるよう準備を進めています。次回もまた全国の高校生の方々に

十二月二十六日、最優秀賞、審査員特別賞、優秀賞を受賞された方々を本学にお招きして授賞式を行いました。道内各地のほか、遠くは九州宮崎まで、六名の受賞者とそのご家族が出席され、喜びを分かち合いました。



懇親会では、江別小麦麺のラーメンサラダなど、地元の味でおもてなし

審査員のはた万次郎氏は釧路市生まれ。一九九二年に上川郡下川町に移り住みました。愛犬ウッシーとの日々などの漫画のほか、エッセイも多数執筆されています。

審査員 はた万次郎さん ●漫画家・エッセイスト

イメージが浮かんでくる作品を選びました



授賞式終了後、はた氏が車で戻ると、ウッシーが嬉しそうに飛び出してきました。

2007年度 臨床心理士 資格試験 11名合格

二〇〇七年度の臨床心理士資格試験において、本学大学院臨床心理学研究科の修了生十名(十名)が二〇〇六年度修了生が受験し、十名が見事合格を果たしました。全国的に合格率が六・九%に対し、本学修了生では九一・七%と前年度に引き続き全国平均を大きく上回っています。今回の合格に引き続き高い評価を得ていることから、更なる努力と発展が期待されるところで

教員採用登録者

平成二十年北海道・札幌市公立学校教員採用候補者登録者が十一月十九日、北海道教育委員会から発表されました。採用候補登録者は中学校が減少、小学校、高校及び特別支援学校が増加し、全体では前年より増加しました。しかしながら本学が受験できる学校種・科目別にみると中学校の社会、

就職戦線 四年連続就職内定率UP・人間科学科健闘!

大卒の求人倍率が十六年ぶりに二倍を超え、「売り手市場」と言われてスタートした四年生の就職活動もまもなく終了を迎えます。就職内定率は、四月から前年を上回る好調なスタートを切り、十二月末の内定率は六三・三%、内定率は前年を二・六ポイント上回っています。求人数量並びに、「学内合同企業説明会」に参加企業の増加、毎週木曜日に実施している「就職支援プログラム」などの効果もあり、最終の内定率は四年連続で前年を上回ることになりました。

就職戦線 四年連続就職内定率UP・人間科学科健闘!

「売り手市場」と言われている「学内合同企業説明会」には、二百六十社を超える企業が参加しています。採用を優先する厳選の企業に参加して、多くの企業に参加して頂けるのは、OB・OGの活躍で札幌学院生の実力が評価され、本学学生に対する期待が高まっていることと表れています。今年もこの説明会参加者から多くの内定者が出ることを期待し、キャリア支援課では個人面談を中心に就職指導を行っています。

弓道部

男女そろって全日本出場

人文学部英語英米文学科二年 鈴木 裕貴さん

札幌学院大学弓道部は、十一月中旬に三重県伊勢神宮で行われた全日本学生弓道王座決定戦に出場しました。十月に行われた全道学生弓道争覇戦において男子三連覇、女子四連覇を果たし、この大会の出場権を獲得しました。

全国各地から多くの強豪校が集った中、北海道では体験することのできない精鋭チームの迫力、神宮での緊張感を肌で感じる事ができました。女子は残念ながら一回戦で敗退しましたが、男子は全国ベスト四という成績を残すことができました。そして同日行われた東西学生弓道選抜対抗試合では和泉千恵理(経済学部経済学科二年)が出場し、二十射十七中で東軍の勝利に貢献しました。

十一月下旬には中国から北京師範大学珠海分校の弓道交流訪問団が、弓道部を訪問してくださいました。短い時間でしたが、中国の方々の交流を通して、弓道に対しての考え方や文化の違いを実感することができ



2007年 課外活動 PICK UP

ストレスや孤独感からの解放

癒し系サークル夢香房 人文学部臨床心理学科三年 山崎 里子さん

私たちが癒し系サークル夢香房は、一年生から三年生までの二十四名で「癒し」ということをテーマにアロマテラピーに焦点を当て、活動しています。アロマテラピーとは、植物の香りや特殊な方法を使って取り出したオイルを使用して、ストレスや、病気とはいえない、頭痛やイライラなどの様々な身体の不調を整える技術です。古代から人は植物の香りを祭祀・儀礼・治療・美容に用いてきました。植物の香りの利用は世界の各地域で発展し、今でもそれは伝統医学や民間療法として受け継がれています。現代にあふれる情報と技術の発達には私たちの生活を豊かにしてくれ、しかしその反面、ス



見つめなおしてみませんか？

子どもたちの笑顔が嬉しい

SGU江別BBS会 会長 今井 瑤子さん

私達SGU江別BBS会は、更生保護を目的としたボランティア活動を行っています。BBSとは「Brothers and Sisters」の略称で、非行はしてしまっただ子ども達の良いお兄さんお姉さんのような存在として彼らに接し、自尊をサポートする団体のことです。活動の中で私たちが力を入れているのが年に四回行われる児童自立支援施設への訪問です。会員が毎回工夫を凝らしてレクリエーションを考え、交流会を行います。十二月に今年度最後の交流会を行い、レクリエーションの他にケーキを一緒に食べたり、プレゼントを贈るなどの趣向も凝らしました。施設の生徒さんが楽しそうにレクに参加してくれることが、私たちの喜びでありやる気の源です。研鑽活動にも力を入れており、昨年の十一月十一・十二日には当会が主管して札幌地方BBS研究会を開催しました。研修では生活技能訓練を扱うなど今後の活動に生かすための様々な取り組みを実施し、大変充実した研修会となりました。



つなぐ・たばねる・折る・曲げる

人文学部子ども発達学科では、実習「図画工作」での制作を通して、児童一人ひとりの能力を見つけ、育てる方法論を実践しています。十二月末から一月中旬にかけて、五十年記念館一階SGUホールにおいて、実習の中で作成した作品の学内展示会がありました。若山崇洋さん(同学科二年)は、「お互いの考えをまとめるための作業は、思った以上に時間を要しましたが、個々の大きなものができました。共同作業を通じて一つのものを作成させた達成感があります」と感想を述べました。



指導にあられた藤井正

中学生就業体験

十月十五日から十八日までの四日間、江別市立大森中学校の二年生八名が本学図書館と大学生協で職業体験学習を行いました。これは江別市が実施している「キャリア実践プロジェクト」の一環で、中学生の皆さんに自分の能力・適性や、興味・関心と将来の自分の人生とを関連づけて考えてもらう機会を提供しようという試みです。生徒さんたちは初めての体験に緊張した様子ながらも、毎日真剣な表情で仕事に取り組みしていました。仕事にも環境にもたいぶ慣れた三日目には学長室を訪問。布施晶子学長から実際に働いてみた感想を尋ねられ、「大変なこともあるけど、毎日とても楽しい」と笑顔で答えていました。学長は「人生の中では嫌な仕事をしながら、好きな仕事でも辛いことはあります。大変なこと、難しいことから逃げないで立ち向かっていけば、必ず自分の力になります」と激励しました。



心と将来の自分の人生とを関連づけて考えてもらう機会を提供しようという試みです。

文章を編み、夢を広げる

卒業生この人

作家 月島 総記さん

(2003年 人文学部人間科学科卒業)



その時期の月島さんを支えたのが、サークルの仲間達だと言います。活動休止後も交流は続き、作品の批評やアドバイスをなどをたびたび貰いました。その中で月島さんは、真剣に作家デビューの方法を模索し始めます。「仲間にも勧められつつ、社会に採られて色んな経験して、その上でつくづく『仕事は色々あるけど、僕にはものを書く事が一番面白い。絶対これを仕事にしたい!』と思っただけです。それにはやっぱり賞を取らないといけないと思いました。そこら月島さんの賞への挑戦が始まりました。一年余りの間に『スクウェア・エニックス小説大賞』『ポインタートシナリオコンペ』『アニメックス大賞』『モバイルコミック大賞』

と、小説・シナリオあわせて四つの賞に入賞。念願のデビューを果たします。「仲間が面白がるものを作ろうと真摯に考えたら、急いでもいいものが描けるようになってきましたね。これは創作活動全般に言えると思いますが、いいものを創るためには他人の意見は重要です。もの創りを仕事にしたこと」と言います。小説・シナリオ・漫画原作と活躍の場を広げる月島さんの夢は、まだまだ尽きることがありません。

その時期の月島さんを支えたのが、サークルの仲間達だと言います。活動休止後も交流は続き、作品の批評やアドバイスをなどをたびたび貰いました。その中で月島さんは、真剣に作家デビューの方法を模索し始めます。「仲間にも勧められつつ、社会に採られて色んな経験して、その上でつくづく『仕事は色々あるけど、僕にはものを書く事が一番面白い。絶対これを仕事にしたい!』と思っただけです。それにはやっぱり賞を取らないといけないと思いました。そこら月島さんの賞への挑戦が始まりました。一年余りの間に『スクウェア・エニックス小説大賞』『ポインタートシナリオコンペ』『アニメックス大賞』

スクウェア・エニックス小説大賞受賞作品



©2007 Souki Tsukishima-SQUARE ENIX

十二月一日に社会情報学部一年生の第二回スポーツ大会が、本学第二キャンパス総合体育館を使って開催されました。このスポーツ大会は昨年からはじめたもので、有志の学生が主体となって開催しているものです。今年度の第一回(六月三十日)に実施)は二年生、第二回は一年生が実行委員となり、先輩のアドバイスを受けながら準備運営を行いました。

スポーツ大会で交流

今年の実施競技はバス(社会情報学部教授 皆川雅章)

デュク更家氏公認ウォーキングスタイルストプロフェッサーの国広麗さんを講師にお招きして「健康は美しい姿勢とウォーキングから」と題した特別講演会が総合教育センターの主催で開催されました。

美しい姿勢で健康に

十二月一日、会場の総合体育館メインアリーナには、本学部生と教職員、一般市民の方をあわせ、総勢一八〇名以上もの受講者が集まりました。フロア全体を使い、正しい姿勢の作り方と美しく歩くための数々の極意を伝授していただきました。

一月八日から十二日にかけて、第一回学長杯争奪綱引き選手権大会が開催されました。エントリーは六チーム。賞金総額三万円相当をかけて息詰まる熱戦が繰り広げられました。声援の中、職員・学生混成の「チーム松本」が優勝しました。

大盛り上がりの綱引き

「本学には、学生が楽しめるイベントが少ない。学部を超えた交流イベントで大学生活にリズムを持たせたい」と石川千温商学部教授は大会の目的を語りました。石川教授が担当する全学共通特別演習を履修している若野隆二さん(商学部四年)と小林彰宏さん(商学部四年)は、このイベント

